



## 赤い羽根共同募金作文・ポスター作品コンクール 2018 優秀賞

### 赤い羽根共同募金の行く先

鶴田中学校 3年 永澤佳明

テレビや SNS など、時々見かける「赤い羽根共同募金会」というワードですが、この赤い羽根共同募金が一体なにに使われているか、疑問に思った方も、いるのではないのでしょうか。

実は僕もその 1 人です。過去に赤い羽根共同募金がなにに使われているのか、調べたことがありました。

と言うのも、キッカケは小学校高学年の時です。

僕が通っていた小学校では、毎年、(記憶が確かであれば)9月ごろに玄関で、赤い羽根共同募金の、募金集めが行われていまして、僕は毎年、赤い羽根共同募金なぜ行われているのか気にも止めず、ただなんとなくあのふさふさしている非常にかっこいいオシャレな赤い羽根が欲しかったので、母からもらったお金を募金集めしている人に渡して、赤い羽根をゲットしていました。

そして今年もあのふさふさした非常にかっこいいオシャレな羽がもらえると、わくわくした様子でお金を受け取った。僕はそのお金を全額、募金している人に渡すつもりでいました。

しかし、母から受け取ったお金を見て、僕の心は黒い方へと変わります。母から受け取ったお金は、千円と二百円と言う、とてつもなく中途半端ながら、当時の僕にとっては非常に高価なお金だったので。

学校で開かれていた赤い羽根共同募金は、1円だろうが百円だろうが千円だろうが、募金した時にももらえる羽は 1 つです。故に千円と二百円をもらった僕は、何円払っても同じなら、二百円を払い、千円をもらってしまえば良いのではないかと、言う実はずる賢いことを思いつきます。

しかし、母からもらったお金のように中途半端な正義感を持っていた僕は、そのような考えはありえないと、募金している人に、ちゃんと千円と二百円を渡しました。そして僕は、あのふさふさした赤い羽根をもらいます。もらった数はやはり、1 つだけでした。

その夜、ランドセルに貼られた赤い羽根を見て、その赤い羽根の価値について考えます。千二百円だろうが二百円だろうが、変わらず 1 つの赤い羽根は一体何円の価値なのだろう、と。

そして考えている内に、その思考は、募金が行われる理由に移り、気になった僕はスマホで赤い羽根について調べます。その結果、僕は募金が何に使われているのかを知りました。

どうやら募金は、一人暮らしお年寄りや、障がい者の支援に使われているようなのです。

それを知った僕は、僕が払った千円と二百円で笑顔になる人たちのことを想像します。すると、僕がとろうとした千円は募金して良かったんだと思い、自然と笑顔になりました。

その後、僕はベッドに横になる。ベッドからは、ランドセルに離れたあのふさふさした非常にかっこいい赤い羽根が見えました。